

展示室2階をリニューアル



石川県埋蔵文化財センターは平成10年にオープンし、今年28年目を迎えました。施設や設備の老朽化も目立ちはじめ、展示室展示ケース内のクロスも変色が著しくなっていたところ、昨年度末にまずは2階展示ケース内のクロスを貼り替えることができました。

これまで2階の通史展示については、オープン時に「食を中心とした生活用具」というコンセプトに

基づいた展示を行っていましたが、小規模で部分的な展示替えを複数回実施したことで、①コンセプトに合わない展示となっているコーナー、②解説文の内容が古い情報のまま、③キャプションの統一感が損なわれている等の問題が生じていました。

そこで、これを機に展示内容も全面リニューアルすることとなり、6月にリニューアルオープンしました。新しい展示は、これまでと変わらず通史展示とし、それぞれの時代を象徴するテーマに基づき、各時代の特徴的な遺物で展示を構成しました。是非、皆さまのご来館をお待ちしております。



経年劣化で変色していたクロス

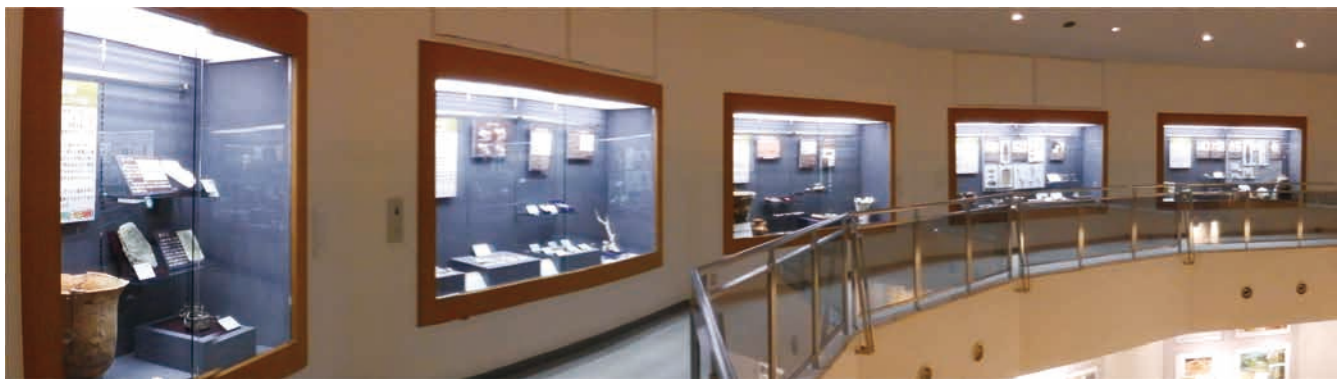


R8 情報発信

展示室2階のリニューアル

今回の展示室2階のリニューアルは、平成10年の開館以来、ほぼ初めての大規模リニューアルとなりました。展示ケースのクロスには近年のトレンドであるダークカラーを採用し、落ち着いた雰囲気じょうせいの醸成と見学者の映り込み低減効果を狙いました。

当センターの展示室は24時間空調ではないことから、残念ながら陳列を諦めなければならない出土品もありましたが、各コーナーの担当者が厳選した展示品が並べられ、展示品の数は一リニューアル前の約220点からほぼ倍増の約420点となり、とても見応えのある展示に生まれ変わりました。



弥生時代と古墳時代のコーナーでは、出土品を床や展示台に置くだけでなく、メッシュボードを使い壁面にも展示品を置くなど、立体的な展示空間を演出しています。

弥生時代の展示は、県内における稲作でんばに伴う農具や、ものづくりの特徴を表す骨角器製作や金属器の生産のほか、当時の石川県の特色でもある玉づくりなどに焦点を当てた展示となっています。

近世の展示では、金沢城下町の絵図（『金沢城下町びやうぶ屏風』（石川県立歴史博物館蔵））を背景とし、モノが大量消費された時代を表現するように、ところ狭しと出土品を並べています。焼き物では県内で生産されたものと、国内で広く流通していたものを比較し、焼き物以外でも当時の生活の品々が数多く並べられています。

展示については、まだまだ改善の余地があるところもあり、他の展示施設の取り組みなども参考にさせていただきながら、今後も少しずつ手直しをして、より良い展示にしていきたいと考えています。

また、開館30周年を控え、テーマ展示としている1階の展示についても、見直しが必要と考えているところです。



メッシュボードを利用した壁面展示



ところ狭しと展示品が並ぶ近世コーナー

R8 発掘調査

令和8年度発掘調査と出土品整理

令和8年度は、4件5,960㎡の発掘調査と、21件の出土品整理を予定しています。

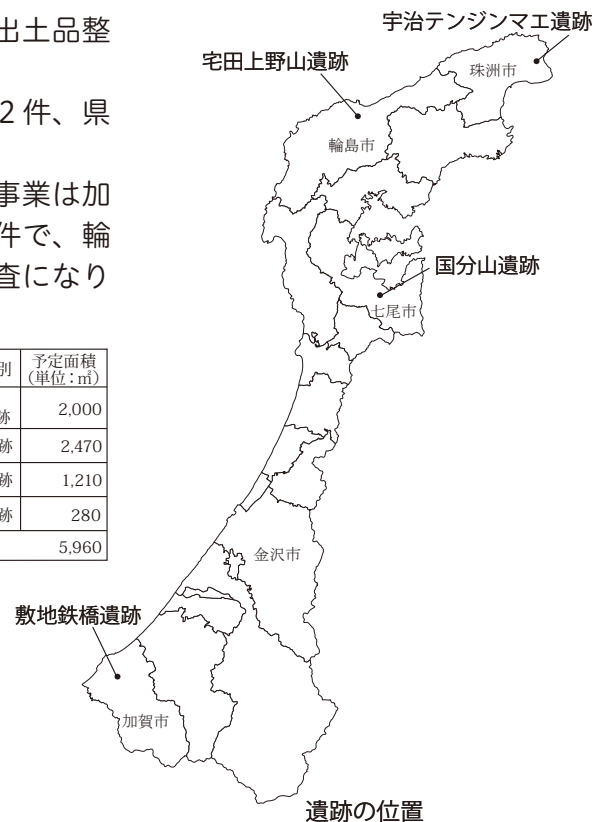
【発掘調査】 国土交通省事業が1件、県土木部事業が2件、県農林水産部事業が1件です。

昨年度からの継続事業は七尾市国分山遺跡で、新規事業は加賀市敷地鉄橋遺跡、珠洲市宇治テンジンマエ遺跡の2件で、輪島市宅田上野山遺跡は、令和5年度以来3年ぶりの調査になります。

事業者	事業名	箇所	遺跡名	時代	種別	予定面積 (単位:㎡)
国土省	一般国道470号 田鶴浜七尾道路	七尾市	国分山遺跡	弥生～古墳	墳墓 集落跡	2,000
土木部	一般国道249号 輪島バイパス	輪島市	宅田上野山遺跡	縄文～近世	集落跡	2,470
	地方道改築事業 一般県道串加賀線	加賀市	敷地鉄橋遺跡※	古代・中世	集落跡	1,210
農林水産部	県営ほ場整備事業 宇治・森腰地区	珠洲市	宇治テンジンマエ遺跡※	縄文～中世	集落跡	280
計 (4件、新規2件※)						5,960

【出土品整理】 国土交通省関連事業、北陸新幹線建設、県土木部関連事業などに伴う発掘調査で出土した遺物などの整理を計画しています。

土器や木製品などの記名・分類・接合、実測・トレースのほか、発掘調査報告書の作成と刊行を行っています。



遺跡の位置



発掘調査風景（輪島市 宅田上野山遺跡）



発掘調査風景（七尾市 国分山遺跡）



土器の接合作業（加賀市 庄・西島遺跡、津波倉廃寺）



木器の実測作業（小松市 古府シマ遺跡）

R7 古代体験

古代体験学習ミニ講座「鏡づくり」

令和8年2月22日(日)、埋文センター体験工房で古代体験ミニ講座「鏡づくり」を行いました。午前の部、午後の部合わせて30名が参加しました。

この体験は、金属加工の「^{ちゅうぞう}鑄造」を体験する講座で、体験者は、金属器の歴史や金属加工に関する説明を聞き、実際に金属を溶かして型に流し込む「^{ちゅうぞう}鑄造」を体験しました。シリコンの型と融点の低い合金を使っていますが、それでも200℃は超える金属を扱っており危険が伴います。「^{ちゅうぞう}鑄造」の基本は現在でもほとんど変わっておらず、慎重に^い鑄込みながら古代の技術の高さに触れていただけたのではないかと思います。

その後、工具を使って金属の切断（湯口の切断）や鏡面の^{けんま}研磨作業を黙々と進め、講座修了時にはとても綺麗な、光り輝く素敵な鏡を作り上げていました。



鑄型からの取り出し



鏡面をひたすら磨く



ピカピカに完成

R7 古代体験

古代体験学習ミニ講座「鉄器づくり」

鉄の鍛造を体験する「^{たんぞう}鉄器づくり」を3月15日(日)に開催しました。午前・午後合わせて21名の参加者がありました。長さ15cmの鉄釘^{しちりん}を七輪で赤く熱して、金槌^{かなづち}で叩きながら、先端を刃状に薄く成形します。その後、砥石で研いで刃先を整えて、持ち手に麻ひもを巻くと、ペーパーナイフができあがりました。熱した釘をペンチで持ち、重い金槌で叩くのは、特に小中学生の参加者には難しい作業でしたが、鉄が熱で赤くなり、形を変えていく様子を興味深そうに見ていました。



釘を赤くなるまで熱します



叩いて成形します



砥石で整えて



完成です

R7 情報発信

発掘報告会「いしかわを掘る」

令和7年度に県内各地で行われた発掘調査の中から、注目される遺跡を紹介する発掘報告会「いしかわを掘る」を令和8年3月1日(日)に石川県立図書館だんだん広場で開催しました。

七尾市国分山遺跡の報告では、弥生時代の方形周溝墓の発見と広大な遺跡から小さなガラス玉を検出する醍醐味を報告しました。金沢市南新保ゴマジマチ遺跡は、北加賀最大規模の前方後方墳などの調査成果をクエスト風に楽しくわかりやすく報告しました。さらに、小松市那谷寺遺跡では中世以前なただらの那谷寺の実態解明に迫る様子や白山市白山町遺跡の中世の道路跡、金沢城跡では能登半島地震の被災石垣の復旧調査の報告がありました。

令和6年度に引き続き県立図書館だんだん広場を会場にしての開催となりましたが、用意した資料も全て配布する程多くの方に参加していただきました。なお、報告会の当日資料は石川県埋蔵文化財センターホームページからダウンロードすることができます。



報告に聞き入る来場者



特設展示コーナー

R8 情報発信

指定文化財春季特別公開

石川県埋蔵文化財センターでは、春と秋に国の重要文化財「加賀郡勝示札」と県指定有形文化財「野々江本江寺遺跡出土品」を期間限定で公開展示しています。

津幡町加茂遺跡出土の「加賀郡勝示札」は、平安時代のお触れ書きとして全国的にも有名で、古代国家の農業奨励政策や命令伝達方法を具体的に知ることができる貴重な資料です。珠洲市野々江本江寺遺跡から出土した「野々江本江寺遺跡出土品」は、木製の板碑いたびと笠塔婆かさとうばの2種類計4点からなり、平安時代以降の墓地や葬送のあり方を知るための貴重な資料です。

これらは、永く後世に残すため科学的な保存処理を施しており、普段は24時間温度と湿度を管理している特別収蔵庫で大切に保管しています。

また、重要文化財は年間の公開日数が定められており、気候が穏やかな春と秋に公開することにしています。年2回しかない貴重な機会ですので、ぜひ実物をご覧くださいと思います。



重要文化財「加賀郡勝示札」



県指定文化財「野々江本江寺遺跡出土品」

R8 古代体験

古代体験学習講座「縄文土器づくり」

5月24日(日)に「縄文土器づくり」を開催し、17名の参加者がありました。会場に展示した出土品5点からモデルを選び、実測図や職員が事前に製作した作品などを手元において作り始めました。粘土ひもを作り、積み上げていく作業は、最初は難しいようでしたが、だんだんと慣れて順調に進みました。後半は、出土品の細部を何度も見て、文様づけの方法を確認していました。とくに本物の土器の薄さにはみなさん驚かれていました。本物を間近にしながら製作することは、やはり当センターならではの体験ということで、たいへん好評でした。



「お手本」土器の展示



体験者の作品



体験の様子

作品は、乾燥後、6月14日(日)に野焼きで焼成しました。まず、土器を火の外側に並べてあぶり始めます。土器の色が変わり、薪が熾き^{まき}に変わった^おら、その中へ土器を移動します。土器が炎につつまれ、すすで表面が黒くなり、さらにすすが燃え、見慣れた土器の色に変化していきます。土器づくりに参加した家族などが見学に訪れ、「自分の作品はどれかな。」「こわれないかな。大丈夫かな。」などと話しながら、この様子を見守っていました。蒸し暑い一日で、火のそばで長時間作業するには過酷な状況でしたが、体験者の力作ができあがりました。



「あぶり」の時間です



強い火で焼成します



体験者が見学にきました

センター施設めぐり

古代体験ひろば 体験工房

埋蔵文化財センターの柱となる業務の一つに、普及啓発事業があります。発掘調査で得られた成果を、多くの人たちに知っていただくとともに、郷土の歴史や文化財に親しみをもってもらいたいことを目的に、各種の行事等を行っています。

当センター古代体験ひろばの一面にある体験工房は、古代人の暮らしとワザを体験できる施設で、平成13年にオープンしました。



体験工房製作室



火おこし体験

体験工房では、いつでも体験できる火おこしや勾玉づくりなどの定番メニューのほか、月替わりのメニューを用意しています。また、土器づくり、はにわづくり、草木染めなどの体験講座も開催しています。詳しくはホームページや行事案内をご覧ください。なお、これらの体験はすべて無料です。

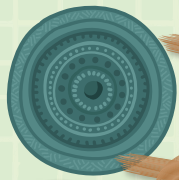
勾玉や縄文アクセサリーなどの製作した作品は製作したその日に持ち帰ることができますが、体験講座で製作した土器やはにわなど、粘土で作るものについては、乾燥後、電気窯や併設の穴窯で焼成して仕上げることになります。



体験講座（人物はにわづくり）



電気窯



まいぶん日誌

令和8年
(2026)

3月～6月



3月

令和7年度 発掘調査速報パネル展



古代体験期間限定メニュー
「いろいろまが玉づくり」



発掘報告会「いしかわを掘る」



学習講座「鉄器づくり」



体験工房での「火おこし」



4月

春季公開 県指定文化財
野々江本江寺遺跡出土品



ゴールデンウィーク「手形・足形づくり」



クイズラリー景品に「まいぶんガチャ」登場



5月

学習講座「縄文土器づくり」



古代体験期間限定メニュー
「組みひもづくり」



6月

古代体験ひろばの
顔出しはにわ



古代体験期間限定メニュー
「縄文かごづくり」

